

# STAGE

AMUSEMENT SQUARE

演劇空間「スペースベン」

## 超・我楽多屋!!

〈文／我楽多屋・長尾広海〉

秋も深まる今日この頃、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

私共、我楽多屋。一年ぶりにFANSに帰って参ります。

昨年11月には、  
「秋の陣」<sup>95</sup>として、新作4本の月間公演。「楽」というテーマのもと、様々な娯楽的作品の公演を行いました。もう一年。何やら、アツと言う間の一年。

11月公演の見所は、やはり、普段台本を書かない劇団員が、台本を書き、創り手になるという所。

各々、独特の世界観。  
今までの我楽多屋のイメージから、一転二転した作品群。

十八十色という言葉が、まさしく実感できる瞬間。

「人」って、本当に面白い。  
ところで、質問です。あなたは、一日を長いと感じ、一年を短いと感じますか？それとも、一年を長いと感じ、一日を短いと感じますか？それとも、一年も一日も長いですが、短いですが？

時間の感覚とは、不思議なものです。生き物は、皆、自分だけの時計を持ちながら、もっと大きな時の流れの中を

生きていきます。世界にたった一つの自分の中の時計は、胸の奥深い所で、カチカチと確実に、時を刻んでいるのです。その音に、追い立てられるように毎日を生きていくと、疲れるし、慌てるし、散々で……。

「現在が良ければ、それで良い」と言うことに、〇とも×とも答えはつけられないけれど、現在が良いにこうしたことはない。

楽しむことも、我慢する人というのが、まれないたりする。

素直になれない人というのは、けっこういたりする。

かと、思えば自分に素直で楽しむことが上手な人もいます。

張尻は、どこで合うのか？  
それは、誰にもわからない。

時計屋に入ると、大小、デジタル、アナログ様々な時計が、様々な音をたてながら時を刻んでいます。それこそ息苦しいくらいに……。

時計には、目盛りがついているのですが、時に目盛りはついていない。節目につけ、思い返すのは、良い時と悪い時。

誰かの笑顔。誰かの涙。  
そんなモノが、目盛りとなる。

慢性的に寝不足の私達は、慢性的に夢を見る。

天を見上げ、砂の上に立ち、花を咲かせようと、人は涙を流す。

下手な歌の文句にも、なりやしない。

そんな情けなくも愛しい、いわゆる世間の皆様へ。

## 11月は月間公演

11月スペースBENへ、足をお運び下さい。(おおっと、強引な宣伝だ)

今年の我楽多屋11月月間公演のタイトルは

「1996「超」我楽多屋」

しかも、5週。新作5本です。長尾が、平間が、宮田が、市川が、館が、書く!!

何と言っても「超」ですから。

誰だ、月間公演をやるなんて言ったやつは? (お前だ)

でも、誰が何と言おうと、楽しいことは、やめられない。

日々、熱を増す稽古。

あ、脱ぐな! 叫ぶな夜だ! 走ってどこへ行く! うわー、踊るな! 誰かとめろ! と、言っても誰もとめない。

まだまだ夢見る日々は、続きそうだ。考えることが好きな人も、嫌いな人も、楽しめるモノになることでしょう。いや、してみせましょう。

「今、何が面白いんだろうね」  
と、誰かつぶやく。

「うーん」  
と、誰か考える。

誰かは、誰か? 終わりの無い問い。

何と言っても「超」ですから。最近、流行の「超」という言葉は、イメージで、いいですね。

1996「超」我楽多屋。

96年の我楽多屋は、6月パラボラでの「水底の柩」から始まり、11月月間公演「超」我楽多屋で終わる!!

昨年の満員御礼により、今年も、金曜、土曜の2日公演とさせていただきます。

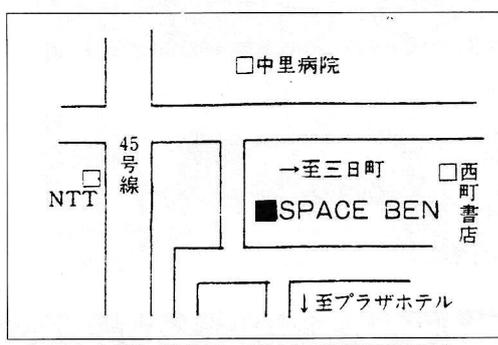
尚、ここだけの話。

10月25日のFANSも、我楽多屋がやるらしい!? 11月のオープニングとして、全員そろっての前口上。

何と言っても「超」ですから。どうぞ皆様、乞うご期待!!

問い合わせ

〒031 八戸市柏崎一十二ー八  
TEL&FAX 0178(43)9876



車での来場はご遠慮下さい(近くに西町書店駐車場有)